

日本におけるもう一つの課題は、少子高齢化です。医療・介護・福祉の必要な高齢者が増加する一方、ケアに当たる人材が不足しています。医療のシステムでもできるところはロボット化やIT化によって補えるかもしれませんが、ヒトの病気の治療やケアには、多様な配慮を要する課題を含んでいます。

す。人の手で行う治療やケアの重要性はますます明らかになってくると思いますが、

肥後医育振興会の企画では、身近な医療に関する課題に軸足を置きながら、「安心・安全な未来社会」の構築のために、様々な専門家の話を伺い、地域において何ができるかを考えていきた

いと思います。この観点から、多くのリーダーの方々に理事・評議員をお願いしています。肥後医育振興会は皆様方のご寄付支えられて成り立っています。今後ともご支援よろしく願っています。

副理事長就任のご挨拶

副理事長 片 淵 秀 隆



した西前理事長ならびに山本前副理事長に深甚なる感謝を申し上げます。

私は、平成三十年三月に本会の理事に就任し、令和元年六月より事業担当の常任理事を務めて参りました。今後は、代表理事のひとりとしての責務を負うとともに、引き続き本会の骨格である事業の立案と遂行を担って参ります。本会事業の目的は、熊本県における医学振興に必要な教育・研究への助成および委託事業等の実施によって地域医療の向上と県民の健康増進および日本国内外の医学・医療の発展に寄与することです。

医学教育・研究の助成と医学国際交流の支援として『肥後医育振興会奨励

賞』と『肥後医育振興会有終留学生表彰』の付与、熊本県民への医学・医療情報提供活動として『肥後医育塾』公開セミナーならびに『熊本県医療人育成総合会議』の開催、熊本県下の医学・生物学領域の学会・シンポジウム、研修会・教育セミナーの助成を公益事業として行っています。『肥後医育塾』

は年三回、熊本日日新聞社と化学及血清療法研究所との共催で開催し、過去三年は「二人に一人がなるがんを正しくろう」、「診療連携」、「三大疾病」高齢者の適切な治療」と続き、今年度は「ちょっと気になるその何気ない症状、放置していませんか？」を取り上げました。『熊本県医療人育成総合会議』は熊本の良い質の医療や福祉の実現とそれを支える人材の育成を目指すもので、十四回目となる今年度は喫緊の課題である「医療機関における働き方改革と医療人育成」をテーマに開催予定です。

これらの開催後には概要を新聞掲載しています。収益事業として健康・医学・医療に関連する記事を掲載した生活情報誌『あれんじ』を毎月発行（三十五万部）し、本会の広報活動のため平成九年に創刊の『ニューズレター』を毎月三千部発行しています。三年前から『肥後医育塾』と『熊本県医療人育成総合会議』のYouTubeによる動画配信も加わり、本財団の多彩な活動を県内外に公開している中で、総再生回数が一万回を超えるセミナーもあり、また海外からのアクセスもみられます。

徳臣晴比古初代理事長以来四人の歴代の理事長の下で営々と築かれてきた本会の功績を汚すことなく、公益財団としての使命を果たすべく、松下理事長を支え誠心誠意努力いたす所存でございます。何卒一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

